

平成29年9月11日

9月学校集会講話 — 二つの主張 —

連日、体育館から、行進練習をするみなさんの足音が、笛の音や行進曲とともに、聞こえてきています。長縄跳びやむかで競争などの練習に取り組む様子も見られます。先週はまた、応援旗の作成に熱心に取り組んでいました。

今月末は、体育大会です。私には、先生になってから、忘れられない体育大会の思い出があります。

正確に言うと、体育大会に向けての活動中の思い出です。体育大会の学級目標を決めようと、学級会を開いた時のことです。

「めざせ、優勝！」にしよう、とある生徒が提案しました。賛成者がたくさんいて、学級の雰囲気も、体育大会の目標は、優勝をめざす方向で決まりかけているようでした。

しかし、何人かの生徒から、こんな提案が出たのです。

— 目標は、「体育大会を楽しもう」がいいです。

どうしてこんな提案が出たと、みなさんは思いますか。

「体育大会を楽しもう」という提案をした生徒たちの考えは、次のような内容でした。「私は運動が得意じゃないので、優勝をめざすというのは、とても負担です」「いい結果が出せなかったり、失敗したりしたときに、責められる感じがして嫌です。なぜ楽しむのはいけないのですか」

こうした意見に対して、「めざせ、優勝！」を目標にしている生徒たちからは、次のような意見が出ました。「参加するからには優勝をめざすのが当然なのではないでしょうか。初めから優勝をめざさないなんて、他の学級に失礼だと思います」「楽しむだけで真剣にやらない人を見ると、怒れてきます」

私には、どちらの言い分もよく分かりました。けれども、学級で団結して体育大会に参加するためには、やはり全員が納得した目標を決めることが必要でした。

そこで、私はこんなアドバイスをしました。「今の意見を聞くと、それぞれに嫌だなあと思っていることがありましたね。それらを解決することができれば、目標が決まるんじゃないかな」

この後、生徒たちは話し合っ、納得のいく体育大会の目標を決めることができました。それを見て、よくお互いのことを考えた素敵な目標を決めることができたな、と私は思いました。ですから今でも覚えているのです。

さて、それはどんな目標だったとみなさんは思いますか？ ヒントは、目標の後に、いくつかの約束ごとをつけたものでした。どうか、この機会に一人一人に考えてほしいと思います。

(石原正教)